

クラス番号	919	ゼミタイプ	コミュニティ型サービ斯拉ーニング
		担当教員名	高山 京子
テーマ	「共に生きる」を考える ～「多様性」・「当事者」をキーワードに！～		

ゼミナール概要

キーワード；ソーシャルワーク、精神保健福祉、障がい者福祉、当事者、多様性

【目的】

多様性を尊重する社会の必要が言われるようになり随分の時間が経過しています。実際、この日本でも大勢の多国籍の人々と暮らし合う社会が現実となっています。また、暮らし、生きる価値も多様化、ひいては人のあり方も多様化してきて、「老若男女」の言葉に留まらない、様々な「人たち」との暮らし合いが現代社会の大きなテーマの一つであり、現実そのものと認識しています。しかし、このテーマへの向き合いは容易ではなく、社会問題として現れ、難渋している「現場」への眼差しとそれへの直接的関与がなければ具体的な内容も分かりません。当然解決手立てへの思いも馳せられません。いうなれば「言うは易く行うは難し」の課題です。

この演習では、担当教員が活動フィールドとしている障がい（主に精神、発達）の分野を中心にしながら、学生が興味ある分野への“開拓”にチャレンジすることなどを視野に入れたフィールドワークを展開します。そして現場の叡智から現代の社会的テーマでもある「共に生きる」を考えます。その際、興味のある分野やじぶんの問題関心に関連する先行研究を踏襲する学術的手続きを習得するなど、3年・4年次の専門演習に向けた準備も意識していきます。これら活動を通して多様な考え方、価値観に触れながら、自分の意見を持てるようになること、そのことを発言し、行動に移せるようになること、さらには広い視点の獲得を目指します。

【授業計画】

1年間を通し、がつつりフィールドワークを行うことを目指します。デジタルで便利な時代になったからこそ、大切なこと、人に出会うためには、アナログな取り組みへの回帰を重視します。つまり、「足で稼ぐ」です。基本的なカリキュラムとしては、①前期には、「活動先選択、グループ分け、研究テーマ決め、事前学習」、「企画の作成と活動実施のための準備」、②夏休み中の5日間のフィールドワークの実施、③「活動のリフレクションと研究活動」と「報告会とレポート作成」、です。これはサービ斯拉ーニングの共通スタイルですので、この流れに沿いながら各々の問題関心、研究課題に向き合ってください。担当教員の人的ネットワークもフル活用します。私の自慢は、「人のつながりの多さ」だけなので、福祉分野に留まらない多様な人たち（当然、「当事者」といわれる人も含まれます）との出会いには事欠きません。その方たちとの出会いを通して、ぜひ「学ぶ・考える」の必要を実感して下さい。

担当教員からのメッセージ



私は約30年、縁あって精神障がい当事者や家族の支援活動に携わってきました。精神科病院のソーシャルワーカーを皮切りに、精神科クリニックのソーシャルワーカー、私的実践を経て、社会福祉法人の立ち上げ、日中活動の事業所、相談支援事業所の設立、事業運営に至るソーシャルワークの多くを経験し（施設整備まで手がけましたが）て現在の私があります。現在は自身でNPO法人を設立・主宰し、市の福祉行政の委託事業を受けて事業展開しつつ、精神障がいや発達障がいのある人それぞれが自分のやりたいことを「起業」できるようバックアップする活動もしています。「とにかく“ふくし”は面白くなくっちゃ！」が私の活動のキーワードでありモチベーションです。皆さんには力強く一歩を踏み出せる人になってもらいたい。一緒に活動し、学び合いましょう！